日産合成工業株式会社　メ　ー　ル　マ　ガ　ジ　ン
2025・12　第 216 号

ラクリマ・クリスティ と La’cryma Christi

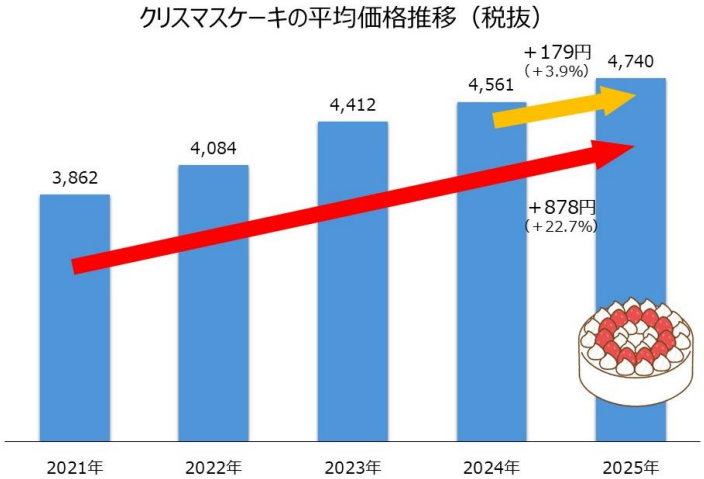
「ラクリマ・クリスティ」という名前のワインをご存知でしょうか。『キリストの涙』という意味ですが、堕天使ルシファーが楽園を追放されたとき楽園の一部がナポリに面したティレニア海に落ち（これが蒼く美しいナポリ湾になったとされる）、美しい青空の一部を失ったことを悲しんだキリストが涙を流し、その涙が落ちたヴェスヴィオの土地でワイン造りが始まったという伝説（約2000年前の「博物誌」に記載）に由来しているそうです。ヴェスヴィオ火山の土壌に由来する豊かなミネラル感が顕著であることが大きな特徴で、白、赤ともに様々な料理と相性の良い、南イタリアを代表する万能ワインです。

ナポリ湾・ヴェスヴィオ火山とラクリマクリスティ

一方、「La'cryma Christi（ラクリマクリスティー）」は、1991年に大阪府で結成された日本のヴィジュアル系ロックバンドで、バンド名には「誰も見たことがないキリストの涙の色を、自分たちのステージングと楽曲で表現したい」という想いが込められているそうです。2007年に解散するまで、MALICE MIZER、FANATIC◇CRISIS、SHAZNAとともに「ヴィジュアル四天王」と呼ばれ、代表作には「With-you」「未来航路」「Without you」などがあります。個人的には結構好きな楽曲で、よくカラオケで歌った記憶があります。メンバーの変更などを経て2025年に再結成しています。

クリスマスケーキの高騰 と “BMI”

今年もいよいよクリスマスシーズンですが、イチゴ、乳製品、カカオなど主要な原材料費の大幅な高騰に加え、包装資材、電気ガス代、人件費、配送費用の上昇などの影響を強く受け、今年はクリスマスケーキの値上げが顕著となっています。帝国データバンクによると、全国の大手コンビニエンスストアや百貨店、スーパー、著名な洋菓子店など計100社で販売されるクリスマスケーキの価格（標準的な苺ショートケーキ５号（4～6人向け）ホール）を調査した結果、2025年冬シーズンの平均価格は4,740円（税抜）となり、１年前に比べて＋179円（＋3.9%）、本格的な値上げラッシュが始まる前の2021年に比べて＋



878円（＋22.7%）の値上がりとなっています。主要な原材料のうち、イチゴは猛暑による影響で生育が不安定ですし、スポンジ生地等に欠かせない鶏卵は生産コストの高止まりに加え、鳥インフルエンザの感染拡大による供給懸念を背景に高値で推移していますし、ショコラケーキに使うチョコレートはカカオの主産地である西アフリカでの異常気象の影響で記録的な高値となっているそうです。これら原材料の高騰を受け、イチゴの数を減らすとか、装飾・デザインをシンプルにする“簡素化”、ホールケーキの高さを抑えるといった“小型化”が今年のトレンドとのことです。

一方、“ビッグマック指数（Big Mac Index）”の近年の変化にも着目しました。BMIはこのメルマガでもたびたび登場しますが、マクドナルドの代表的なメニューのひとつである「ビッグマック」が世界各国の店舗でほとんど同じ材料でつくられることから、アメリカのビッグマックの販売価格を基準（BMI＝0.0%）に、世界各国での販売価格を比較したものです。英国の経済誌「The Economist」が毎年発表しており、各国の経済力や物価水準などを判断する指標のひとつとして使われています。

ビッグマックの販売価格（日本円相当）とビッグマック指数の比較

	2005年12月	2015年12月	2021年1月	2025年12月
日本	250円 (-16%)	370円 (-29%)	390円 (-23%)	480円 (-47%)
アメリカ	299円	518円	508円	902円
スイス	565円 (+89%)	798円 (+54%)	757円 (+49%)	1,403円 (+55%)

（　）内はアメリカのビッグマックの販売価格を基準としたビッグマック指数（BMI）

2021年1月の日本のビッグマックは1個あたり390円でしたが、2025年12月11日現在では480円と＋90円（23%増）となっています。世界平均では、404円相当（2021年）から729円相当（2025年）に上がっています（同80%増）ので、日本のビッグマックが高くなったと言っても、グローバルなインフレ傾向から見ればまだ上昇幅が小さいと言えます。BMIで見ても、2005年が-16%、2015年が-29%、2025年が-47%と推移していることから、円安の進行もあいまってアメリカとの価格差が広がっていることが伺えます。なお、世界でもっともビッグマックが高いのはスイスで、1個あたり1,403円（2025年12月、BMI=55%）相当だそうです。日本の約3倍もするなんて、ビックリですね。

トナカイの”反芻”と“睡眠”

クリスマスと言えば、サンタさんの相棒、“トナカイ”が思い浮かびますが、トナカイ（学名: Rangifer tarandus）は偶蹄目シカ科（シカ）トナカイ属の1種で、ウシと同じく4つの胃をもつ反芻動物であり、人類が最も古く家畜化した動物の一つとして『馴鹿（じゅんろく）』とも呼ばれます。英語ではレインディア、北アメリカ大陸ではカリブーとも呼ばれますが、和名のトナカイはアイヌ語での呼称「トゥナカイ（tunakay）」または「トゥナハカイ（tunaxkay）」に由来し、江戸時代に樺太探検をした間宮林蔵が日本で初めて紹介したそうです。

近年、ノルウェーの研究チームから、トナカイの“睡眠”についての調査結果が報告されていますのでご紹介します。実験施設内で冬至（真っ暗）・夏至（白夜）・秋分の日に近い環境を再現して、4頭のトナカイの脳波データを調べたところ、ほとんどの生物は体内時計（概日リズム）を持ち、朝の光を浴びたり食事を取ったりしたときに調整するのに対し、トナカイには体内時計がほぼ存在しないことと、トナカイは夜が短い夏でも十分な睡眠時間を確保するために、反芻中に睡眠状態（ノンレム睡眠）になれることが明らかになったそうです。食事しながら寝ることができるなんて器用な生き物ですね。（Reindeer in the Arctic reduce sleep need during rumination / Current Biology ReportVolume 34, Issue 2p427-433.e5January 22, 2024）

https://gigazine.net/ より

家庭料理の定番で、日本の国民食と言われるほど愛されている“カレーライス”についても、「カレーライス物価指数」というものがあるそうです。カレーライスで使用する原材料や、調理にかかる水道光熱費などを独自に試算したもので（帝国データバンク、2020年平均=100）、 2025年10月のカレーライス物価（カレーライス1食あたりの費用）は451円（カレーライス物価指数=164.7）となり、この5年の間に1.6倍以上となっているとのことです。カレー商材の野菜3種（ニンジン・ジャガイモ・タマネギ）に加え、直近ではコメ価格の高騰の影響が大きいようです。

日本は多くの資源や食料を輸入に頼るため、円安と国際価格高騰のダブルパンチにより物価上昇が加速していると言われています。クリスマスケーキもビッグマックもカレーライスも、思う存分食べられない時代になったかと思うとキリストじゃなくても悲しくて涙が出ますが、せっかくのクリスマスですので工夫して楽しみたいですね。（O）

お知らせ

印刷用の PDF ファイル

印刷用に PDF ファイルを添付しました。PDF ファイルをご利用いただくためには、Adobe Reader が必要です。お持ちでない場合、こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。

メールマガジンへの登録・ご質問等

メールマガジンの配信の停止や登録内容の変更、お問い合わせ、ご意見・ご要望等等は当社のウェブサイトのトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を当社のウェブサイトのトップページにある

「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしくお願いします。

QR コード

QR コードから、当社のウェブサイトのトップページにアクセスできます。